

# 勝林寺々報

昭和六十三年度代議員会議案書

昭和六十三年度代議員会議案書

昭和六十二年度

経過および反省

わたしたちの宗門（浄土真宗本願寺派）は、昭和六十二年、あたらしい出発を致しました。「顕如上人四百回忌法要」を昭和六十六年に迎えるに当り、「念佛の声を世界に、子や孫に」をスローガンに総合的な発展計画を樹て、その第一年目を六十二年度に設定して新出発をいたしました。隣接境内地の取得をはじめとする諸計画がすでに実施にうつされおりますが、勝林寺にあつても、ご門主様からの協力要請のご消息を受け、十二年代議員会において応分のご懇意をもつて協賛することになりました。この懇意については代議員会の決議と総代会の承認を経て八月、基本金会計より立替納入いたしました。

また出石組（出石郡・日高町十九ヶ寺）で行なわれている「第六期出石組門徒推進者養成連続研修（連研）」には、勝林寺より湯口久義氏ら六名の方々が参加研修されています。

勝林寺の内部にあつては、この年度、さして目立つたできことはありませんが、例年行なつてきた行事のなかみは、この年度、一段と充実したと思われます。

まず、恒例の各種法要（報恩講はもちろん彼岸会など）への参詣者はいつもほど満堂となつてきましたことは有難いことです。

その他、仏社・仏婦共催の諸行事も活発でした。「春季研修会」（観桜会）は、残念ながら雨天のためソフトボールの試合は流れたものの、七十名の参加があり、「真宗の葬儀のありかた」を研修したあと、新たに設備された特設舞台を中心にして盛大な観桜会がおこなわれました。これも恒例「研修旅行」は北陸吉崎別院（蓮如上人ご旧跡）・東尋坊でしたが四十七人各地のサービスに大満足でした。

仏社は、前会長龜井孝氏が出石組仏社連盟会長に就任されました。またその連盟の総会においては勝林寺次男がご法話をいたしました。年末「除夜の鐘」を仏事行事のなかにはじめて設けました。仏婦は、今年はじめて二月のダーナの行事として、ご門徒のなかの「寝たきり老人」のお見舞をいたしました。また、総会（七月九日）には、会員の作品展示会をはじめて試みましたところとても盛会好評がありました。

仏社・仏婦とも、この年度、今後のすゝむべき新らしい方向を示すことのできた一年であつたと存ります。

寺族のことについて報告します。住職はかなり多忙な一年を、しかし元気でおつとめすることができました。ご門主さま全国ご巡教の隨行講師を三回もつとめさせていただきました。ご本山や兵庫教区のいろいろな研修会やご法座もつとめさせていたときました。ただ、そうしたおつとめのために、何彼とご門徒にご迷惑をおかけしたことをお詫びします。坊守は年中一度も寝たことなく、元気でつとめさせていたときました。後継住職はこれも一家元氣でバークレーの大学院で仏教の研究に励んでおります。次男が三月結婚せっていました。その際お祝いくださいましたこと

に付いて厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、この年度には、「初参式」がすいぶん沢山ありました。それだけでも、この勝林寺が若々しくよみがえったような気のした一年であります。

昭和六十二年度会計決算の報告

門徒戸数二百七戸からの常費割収入と収入で二百三万四千三百二十三円でした。六十一年度からの赤字繰越（六一年度には白あり災害があつたため）が十五万一千百五八円ありました。そのため主に「法要費」「経常費」等極力ぎりつめた経理をいたしました。結果収支残額四万三千四九二円を六十三年度へ繰越すことができました。

院号等の冥加金改訂のこと

「運営規定」に「冥加金の額については代議員会の申合せによる」とあります。昭和六十年の代議員会で、三ヶ年段階的に増額し昭和六十三年で「院号二十万円」「居士・大姉十万円」とすると申し合せました。今年度よりその通りに

いま日本は円高のなかで、少くとも企業家のかなりながら内にはどうにもならないよう苦悩をいたしながらさなければならぬよい死状態にまで追い込まれてしまつた業種もあります。

しかしその反対に外圧内圧の重なるなかでひいわれます。

そうしたなかで私たちの暮らしは外面はなやかでありながら内にはどうにもならないよう苦悩をいたしながらさなければならぬよい死状態にまで追い込まれてしまつた業種もあります。

いまや政治のうえでも、そのことを深刻に考

昭和62年度 宗教法人「勝林寺」			
	予算額	決算額	比較増減
総 費 金	4,151,158	4,151,158	0
常 費 収 入	1,986,000	1,962,000	-24,000
総 収 入	50,000	72,323	22,323
計	1,883,4842	1,883,165	-1,677

支出の部			
項目	予算額	決算額	比較増減
公 用 金	370,000	384,420	+14,420
主 要 費	450,000	358,000	-92,000
1.兩假年	100,000	30,000	-70,000
2.報恩講	220,000	211,000	-9,000
3.永代玉	130,000	117,000	-13,000
經 常 費	214,100	197,177	-16,923
1.大正保険	24,100	24,180	+80
2.会議費	70,000	63,000	-7,000
3.香草灯明費	40,000	39,856	-144
4.光熱費	80,000	70,141	-9,859
宮 程 費	200,000	244,000	+44,000
文 用 費	20,000	20,000	0
教 育 費	50,000	51,600	+1,600
教 化 費	475,000	498,426	+23,426
1.伝道費	350,000	376,526	+26,526
2.助成費	100,000	100,000	0
3.拡充品販	25,000	21,900	-3,100
事 務 活 動 費	75,000	73,990	-1,010
手 旗 費	30,742	12,060	-18,682
計	1,884,842	1,839,673	-45,169

収支差額	1,883,165 - 1,839,673 = 43,492
------	--------------------------------

昭和六十三年度 代議員会を下記により開催致します。代議員各位のご出席をお願い致します。

記

二月十四日(日) 午前九時半

昭和63年度 宗教法人「勝林寺」歳計予算			
収入の部	項目	予算額	前年度予算額
総 費 金	43492	▲ 151,158	194,650
宗 教 収 入	196,000	1986,000	△ 24,000
其 他 収 入	50,000	50,000	0
計	2,055,492	1,884,842	170,650

支出の部			
項目	予算額	前年度予算額	比較増減
全 費 金	385,000	370,000	15,000
法 事 費	250,000	450,000	0
1.西彼岸	100,000	100,000	0
2.報恩講	220,000	220,000	0
3.永代經	130,000	130,000	0
其 他 費	200,000	214,100	▲ 14,100
1.火葬保険	24,180	24,100	80
2.会議費	65,000	70,000	△ 5,000
3.香華灯明費	40,000	40,000	0
4.光熱費	70,820	80,000	△ 9,180
電 給 費	300,000	200,000	100,000
文 書 費	20,000	20,000	0
被 墓 費	52,000	50,000	2,000
教 化 費	505,000	475,000	30,000
1.伝道費	380,000	350,000	30,000
2.助成費	100,000	100,000	0
3.記念品費	25,000	25,000	0
事務運営費	75,000	75,000	0
予備費	68,492	30,747	37,750
計	2,055,492	1,884,842	170,650

月八日九日まで  
経常費割は永代經一七

た。  
「教化費」は少し強化しまし

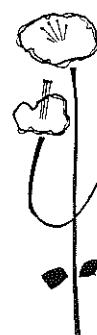
た。  
「支出の部」  
當繪費が三〇万円になりまし  
たのは六十一年度の額にかえ  
したということです。公課金  
は言わば自然増です。

「支出の部」

### 「門徒台帳」書込の依頼

「門徒台帳」も四年目ごとに書き替えることになっています。  
入学祝・成人式の祝など、すべてこの台帳によつて選び出しますので、脱漏のないようお願い致します。(生年月日は正確に)

代議員会に提出  
ください



出石組仏社連盟総会  
◇七月三日

仏社関係が落ちていました

◇十一月  
十八日 教区仏婦三十周年記念大会  
二十一・二日 報恩講

◇九月  
四日 出石組総代研修会  
二十五日 出石組「連研」  
二十六日 秋季彼岸会

◇十月  
九日 別修(敬老)報恩講  
十六日 十六夜会報恩講

◇十一月  
二月二十一日 勝林寺仏社理事会・総会  
二十一・二日 報恩講

◇十二月  
十六日 十六夜会報恩講

◇一月  
十日 門徒総代会  
六月九日 連研中央教修  
十四日 代議員会・ターナの日  
二十四・五日 仏婦大谷本廟研修

◇二月  
二十三日 春季彼岸会・仏社仏婦合同役員会  
十一・一二日 出石組念佛奉仕団  
二十一日 仏婦総代研修会  
二十四日 出石組「連研」  
二十一日 降誕会

◇三月  
二月二十三日 春季彼岸会・仏社仏婦合同役員会  
十一・一二日 出石組念佛奉仕団  
玉日会降誕会



六十三年度  
予定表

### 「懇志」納入のこと

「教化」と「聞法」を基本にすえてはこぶばかりです。

それは一つは、バイオ・テクノロジーの発達のなかで当然問われる「人間とはなにか」の問題が、やがてだれにも人ごとではなく迫つて参ります。

二つ目は超高度化社会の到来のなかで、「老をみとる」ということと「老をいかに生きるか」という問題が、としてすでに言われている「死」をめぐる問題です。

それと三つ目には、臓器移植とか脳死の問題としてすでに言われている「死」をめぐる問題です。

もともと、この生と老と死の問題にとりくむものが「宗教」でありました。なかなか淨土真宗は、親鸞聖人ご自身おつしやるよう、「生死(しそうじ)」出すべき道であるわけです。

にもかゝわらず私たちは、「生死の問題」など放つちらかして、ただ宗教とは祈願祭すること法事をつとめてあげることぐらいにしか考えていなかつたのではないかと思います。

そこで私たち、宗教の原点、真宗の本来に立ちもどるような方向をめざさなければならぬと思います。

儀式・儀礼だけではなく、「私自身の生老死」をみおしえに聞いてゆく、そういう方向をめざしたいと思います。

昭和六十三年度は、では何をするのか・別に変つたことではありません。今まで通り

ます、「勝林寺寺報」でもつて、全く淨土真宗には初めての若いおかあさんに語りかけようと思ひます。それから、これは勝林寺だけでは出来ることではありませんが、「組」かなにかで、世に行なわれている「老人大学」とは違つた「老人研修会」のようなものをつくるべく運動をしなければならないと思つています。

また、「勝林寺テレホン法話」を、とくにお宅で寝ていらつしやる方々にひろげてゆきたいと願つています。

おそらく仏社も仏婦も、そういう方向で諸行事を計画してくださるに違ひないと期待します。

しかしこれらはご門徒お一人お一人の理解と助言と協力がどうしても必要です。どうぞよろしくお願い致します。

昭和六十三年度

「収入の部」  
常費割は一等一二、〇〇〇円。二等九、〇〇〇円・三等五、〇〇〇円。(各七戸・一〇戸・三〇戸)でお願いしたいと思います。

予算総額は三〇五五・四九二円。

「総代」改選について  
「総代」は六名、任期は四年です。従来の慣例によりオリンピックの年に改選することにしております。

『運営規定』によれば「総代は代議員会において門徒全體の中から選ばれた者を住職が委嘱する」となつています。

今回の代議員会で選考がなされますので、改選のことにつき各地区でご考慮ご用意ください。

「門徒台帳」も四年目ごとに書き替えることになっています。

入学祝・成人式の祝など、すべてこの台帳によつて選び出しますので、脱漏のないようお願い致します。(生年月日は正確に)

）